

No. 018

## 「かまぼこの急性肝障害に対する抑制効果は見出されなかった」

**研究タイトル；** かまぼこ摂食による急性肝障害抑制効果に関する研究

**主任研究者；** 新井博文（長崎大学 水産学部）

**研究目的；** 肝臓の機能は非常に多く、炭水化物・脂質・タンパク質の代謝・貯蔵、ビタミン類・電解質の代謝、薬物代謝、有毒物質の解毒などがある。ウイルス感染やアルコールの過剰摂取などによって、肝臓の代謝・解毒機能に障害が生じると、体内の恒常性が著しく損なわれる。近年、様々な食品の摂取による肝障害の抑制効果が報告されているが、かまぼこについてはこれまで検討されていない。本研究では、かまぼこの摂取による肝障害の予防効果について、動物実験によって検討した。

**研究結果；** 9週齢の雄マウス18匹を2群に分け、それぞれの群に通常飼料（対照群）およびかまぼこ添加飼料（10%タンパク質；かまぼこ群）を14日間自由摂餌させた。両群のマウスに薬物（D-ガラクトサミン）を腹腔内投与し、人工的に急性肝障害を誘導した。肝障害の指標である血清トランスアミナーゼ（GOTおよびGPT）活性を測定したところ、かまぼこ群のGOTおよびGPT活性は対照群より高い傾向があった（図1）。また、肝組織の光学顕微鏡観察を行った結果、両群ともに肝細胞の壊死が観察された。以上の結果から、かまぼこ摂取による急性肝障害予防効果は期待できないことが示唆された。

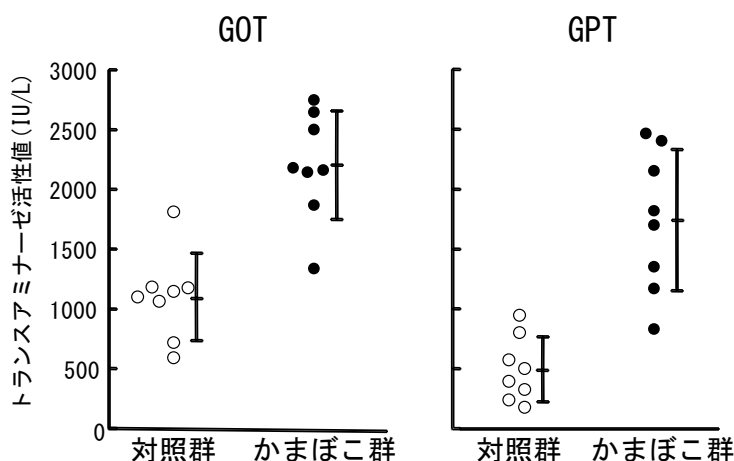


図1 マウス血清中のトランスアミナーゼ活性値